

## 生きてゐる神の言葉

へブライ人への手紙四章一〜13節

(月)

神の言葉は生きていて、力があり、いかなる両刃の剣より鋭く、魂と霊、関節と骨髓とを切り離すまでに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができます。(12)

神の言葉が語られるとき、私たちを慰め、励ますときばかりではありません。私たちを真に生かすために、み言葉は剣となって私たちを刺し通すことがあります。外科医が鋭いメスを用いて腫瘍などの病巣を取り除くように、神の言葉は私たちを刺し貫き、罪に染まった病巣を取り除こうと働きかけます。神の言葉には命と力があり、私たちを刺し貫くことによって人を真に生かそうとします。ですから私たちは、神の言葉が魂の内に切り込んでくるのを拒んではなりません。私たちは常に、自分は正しく、変わらなければならぬのは相手だと思ひこんでいるところがあります。そして、神をさえ変えようとしません。しかし、変わらなければならぬのは私たち自身です。自分が変わることを恐れてはなりません。神の力あるみ言葉によって私たちは変えられ、新しい命に生かされるのです。